

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社 カスタネット		
事業所名	グループホーム カスタネット 1階 さくら		
所在地	〒606-0024 京都府京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2670600424-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該ホームでは、利用者との日々の生活の中で、その人らしさを尊重しながら、安全で豊かな生活が送れる様にとレクリエーションの内容に力を入れています。レクリエーションを通して、利用者とコミュニケーションを図り利用者にとってのニーズや、支援における改善点を新たに発見する事で、よりその人らしい支援に繋げる事を目的としています。レクリエーションでは、壁画の作成や折り紙、切り絵を楽しみながら手先を動かしたり、時には外出してお花見や紅葉狩り、外食等季節を感じながらの会話を楽しんでいます。また、ボランティアの方に音楽コンサートやマジックショー、人形劇を披露して頂いたり、生け花の先生にも来て頂き利用者の感性を大切に作り上げていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、利用者の生活の中に多くのレクリエーションを取り入れたり、掃除や洗濯、調理等個々に合わせて役割を分担することにより利用者のできることを引き出し、生き活きと生活出来るよう取り組んでいます。職員は常に利用者の希望を聞き、自由な暮らしの中でその人らしく過ごせるように理念に沿ったケアの実践に向けて、利用者の担当制を設け、それぞれの利用者の細部まで深く関わり、言葉遣いにも留意しながら利用者本位の支援を行っています。職員間の関係も良好で何事も相談し合える関係が築かれており、向上心を持って様々なことに挑戦しています。また地域の行事への参加やドライブ、花見、いも掘りなど多彩な外出の機会を設けると共に実家や以前勤めていた仕事関係の所へドライブするなど希望を聞きながら個別の外出にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,28)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った支援を心掛け、一人一人がその人らしい暮らしを出来る様に関わりを持ち、行事等にも進んで参加している。	開設時に職員で話し合い作成した理念をリビングに掲げ、入職時には代表者が理念についての話しを行っています。常に利用者の思いを把握し、自由な暮らしの提供や様々なレクリエーションを実施する中で、その人らしい暮らしの実現を目指し、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩する時に、地域の方と挨拶を交わし、地蔵盆等の行事に参加している。秋祭りには献酒をし、ホームの近くを通る神輿を皆で観たりしています。	町内会に加入し、回覧板等で地域の情報を得て、神社の祭りや地蔵盆、区民運動会等に参加し交流を図っています。ミニコンサートや生け花、音楽療法等のボランティアの来訪や日々の散歩時に会う方々と挨拶を交わし、花を頂くなど良好な関係が築かれています。また小学生対象に体験学習の受け入れや認知症の講演を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	小学校で行う福祉の授業や、認知症サポートで寸劇を手伝うこともある。また、地域包括支援センターの方の協力で、地域の行事にも参加させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の方が、毎回消防訓練に参加してくださり、相談等にもアドバイスをいただいたりしている。	会議は福祉委員、社会福祉協議会役員、地域包括支援センター職員、家族、利用者等の参加を得て隔月に開催しています。事業所の状況報告や行事等の説明後、参加者から多くの意見をもらっています。レクリエーションがマンネリ化しているのではないかと意見を受け、行っている内容について話し合い外出先を見直し外出の機会となるなど、出された意見は検討しサービスに反映するよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所の支援課が若年性認知症の方の入所希望を支援されていて、空き状況を伝えたりしている。また、家族を連れて見学にも来られている。	市主催の連絡会や研修会にはできるだけ参加し意見交換をするなど交流を図っています。何かあれば役所に出向き質問や相談を行う等協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をしない方針は今まで通り変わらずに継続している。尊厳を大切に、身体拘束をしないで、転倒等の事故を防ぐためにしっかりと見守り等を行っている。	入職時には身体拘束についての説明を行い、理解を深めています。職員は月1回のカンファレンス時に話し合いを持つよう心がけ、見守りを強化し拘束のないケアに努めています。玄関も施錠せず自由に入力できるようにしており、出かけたいたい様子があれば一緒に出かけ、閉塞感のないケアに心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部での研修に励み、職員のストレス等を軽減できる様にカンファレンスで話し合いを持つ等、虐待のない環境を作っている。		

グループホームカスタネット 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去の事例や現在利用されている方の状況を年に1回程度勉強している。権利擁護のテキストから学ぶなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の変更が生じた場合には、改めて利用者や家族に対して説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが、殆ど利用がない。広報誌や何かの折に意見・要望を言って下さる様に伝え、看取りやお葬式を営んだ事を広報誌で伝え、他の家族が希望したいと相談を受けている。	運営推進会議や家族の面会時、電話等で意見や要望を聞いています。職員の名前が分かりにくいという意見を受け、個々の職員の写真に名前を付けて掲示する等、出された意見は検討し速やかに対応するよう努めています。家族に対してアンケート調査を行い、結果については家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で気付いた点や、改善すべき点は、カンファレンスを通して意見や提案がなされ職員間で情報共有ができています。	カンファレンスや日々の業務の中で意見や提案を聞いています。入浴や排泄介助の対応について提案等があり、職員間で話し合い、トイレでの排泄が困難な方でも便座に座ってトイレでの排泄に繋げるなど、サービスの向上や業務改善等に反映させています。内容によっては代表者に挙げ指示を仰いでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が毎日顔を出し、勤務状況を見て把握している。人は必ず良いところがあるので、誉めたり励ましたり、その人柄を見て、話しやすい環境づくりを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修では、特に重要な項目においては同じ内容であっても、毎年研修するようにしている。外部からの研修に対しても職員に声をかけ、積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHオリンピックに参加したり、職員交換研修等を通じて、他のGHとの交流を行っている。毎年、新人研修等を皆で課題を決めて様々な研修に参加するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活を知る上でご家族様・ケアマネージャーの方に事柄を聞き、入居後、快適に不安なく生活をしていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これから本人がどのような生活を送っていかれるかをご家族様と話し合い、心配ごとを受け止め、より良い関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様が必要・希望としていることを知る上で、サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築く上で、絆を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の生活を広報や面会時に報告したり見いただくことで、共にご本人とご家族様と職員との和を共に築く関係を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで交流があった方々の関係を断ち切らないように電話や郵便・面会など配慮しながら、思い出の場を話し合うことで支援している。	友人、知人の来訪があり、お茶を出して居室でゆっくりと話しができるよう配慮し、次の来訪に繋げています。利用されていたスーパーへの買い物や実家の近辺、仕事関で行っていた所へドライブするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。利用者の思いや希望を伝え家族と一緒に墓参りなどへ出かけることもあり、日程調整や出かける準備などの支援も行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士、気の合わない同士を把握して、互いに楽し合える友になるように関わりを支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や死亡で退所された場合、お見舞いに行ったり、ご家族様から挨拶の葉書やお手紙が届きますが、いつの間にか途絶えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの好きなことや生活ペースを観察し把握するように努め、困難な方にはその方の立場にたった思いや希望を検討し、支援している。	入居前の面談時に本人、家族、以前のサービス提供者から生活歴や身体状況、好み等を聞き、アセスメント用紙に記載し職員間で共有しています。入居後の思いや好みなど、日々の会話や様子等から汲み取り意向の把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は大事にしており、なるべく在宅生活延長の支援を心掛けている。 趣味や得意なことをサポートしながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態は健康管理表で把握し、歌の好きな方、散歩に行きたい方、食事の手伝いをしたい方など、一人ひとりの普段の様子を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすために、ご本人やご家族様に要望などをお聞きしながら、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を基に介護計画を作成しています。毎日モニタリングを行い、月1回カンファレンスを開催し、利用者それぞれの担当職員が利用者の様子を報告しています。6ヶ月毎に再アセスメントを行い見直しに繋がっています。家族の参加を得て会議を開催し、意見を反映した計画となるよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録で職員間は常に情報共有出来ており、カンファレンスでの話し合いの中でも、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの方の申し出を積極的に受け、季節の音楽会を開催して頂いたり、個別ではリハビリの先生に依頼し、サポートして頂いている。		

グループホームカस्ताネット 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や周辺地域の人々の協力を得ながら、皆で日々の生活を楽しむ工夫をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、受診結果をご家族様にも知らせたり、利用者ご本人の意見を聞き、今後もリハビリなどの受診を継続するかを検討している。	今までのかかりつけ医の継続が可能であることや協力医について説明しています。受診は基本的に家族が行い、必要に応じて職員が行くこともあります。受診結果は書面や口頭で情報を共有し、連携を図っています。週1回内科の往診があり、往診日の前日に同じ診療所の訪問看護を受けています。歯科は希望があれば2週間に1回の往診があります。かかりつけ医は24時間連絡可能となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師によるバイタルにて、利用者の食事量・水分量・体重の増減・排便・普段の様子など、細かい情報を伝えており、看護師から主治医にも伝えて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様の希望を聞き、診療所の母体の病院へ入院や受診が出来る。 また、入院時の様子も連携がとれており、主治医を通してこちらに伝わってきている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の方からご家族様との早めの話し合いがしたいと言われ、ご家族・施設・主治医との3者で話し合いを行っている。 ご家族様から看取りの希望もあり、過去に6回の看取りを行っている。	入居時に看取りについての指針を基にホームで出来ること出来ないことを説明し、意向の確認をしています。重度化に伴い、医師や家族と話し合いを重ね方針を共有しています。過去に看取り支援を行なった経緯もあり、年2、3回主治医や看護師による看取りについての勉強会を実施し、職員の不安の軽減に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者に寄り添い、普段から様子をよく観察し、事故発生などを防ぐよう努めている。 万が一事故発生や急変時にも、医師と連携して迅速に対応できるよう、日々努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間と夜間での火災を想定して消防訓練を実施している。 訓練時も地域の方に協力を得ながら連絡網を作成し、直ぐに駆けつけられるよう万全の体制が整っている。	年2回、昼夜を想定して消防署の協力を得た訓練と事業所独自の避難訓練を行っています。近隣の方の参加を得て通報、避難誘導、初期消火、消火器の使用方法等の訓練を行っています。内容は運営推進会議にて報告しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分がされて嫌なことはしない・言わないようにし、人としての人格を尊重し、否定するような声掛けや対応はしないように指導を受けている。	管理者から新人職員対象にプライバシーに関する話しを行い理解を深めています。職員は居室やトイレに入る時はノックをする、排泄時の声掛けは小声で行う、名前は名字で呼ぶなどプライバシーを損ねないよう配慮しています。不適切な言動が見られた場合は管理者が個別に指導をしたり、注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を自己決定できるように心がけながら一人ひとりと話し、声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし一日を過ごす支援をしている一方、職員の都合を優先してしまう場合もある。一人ひとりへの声掛けは大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日櫛でといで綺麗にし、その方に似合うカット・毛染めをし、洋服も汚れていたら着替え、清潔感を心がけている。「よくお似合いですね」など、声掛けもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、片付けを利用者と共に行っている。利用者に合わせて細かくカットしたりトロミアップをし、楽しく召し上がって頂けるようにしている。	食事は毎日、業者から配達されていますが、週2回は利用者の意向を取り入れホームで作っています。食材の買い物や野菜の下処理、盛り付け、食器洗い、食器拭きなどできることに携わってもらっています。職員も同じ食卓を囲んで食事を共にしています。正月はお節を取ったり、ドライブを兼ねた外食、手作りのおやつなども楽しみの一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、摂取できていない時は意識して摂取していただくように支援している。月一回体重測定を行い、食事量が適量であるかもチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは必ず行い、介助や声掛け見守りにて行っている。必要な方には歯科の往診に来てもらっている。		

グループホームカस्ताネット 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し日々対応できており、便の状態・周期等を見て便秘薬を使用したり、いつもより早めに介助に入るなどして、臨機応変に対応している。	排泄チェック表に一人ひとりの状況を記録し、パターンを把握し個々に合わせた声かけや誘導を行っています。見守りの必要な方には見守りを強化し、立位のとれない車いす対象の方も二人体制で便座に座るところまで介助し、トイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を防ぐ為、水分を小まめにとってもらったり毎日体操し、利用者一人ひとり体を動かすようにしている。それでも便秘になられることがある時には、二日排便がなければ三日目に便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合った入浴方法(足浴など)をとり、気持ちよく入浴してもらえるように努めている。利用者の体調が優れないときには日を変えるなどして対応し、夏・冬など季節によって入浴時間を変えている。	入浴は週4回を目途に午後に入ってもらっていますが、毎日入っている方もおりあり、希望があれば夜間入浴も可能となっています。柚子湯等の季節湯を取り入れたり、ゆっくりと浴槽に浸かってもらうなど入浴が楽しみなものとなるよう支援しています。拒否のある場合は時間を置いて声をかけたり、翌日にずらすなど無理強いせず入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居眠りされている方や車椅子の方にはお昼寝をしていただいている。また、足元を挙げたり、寝返りを打てない方には体位変換を行い、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要時、どのような薬を服用しているか、副作用はあるか等、お薬リストで把握している。また、主治医から薬の変更等を教えていただいている。薬剤師から服薬の勉強会も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カルタ、トランプ、歌、ボール遊びなど、色々なレクリエーションを毎日行い、スタッフと利用者がふれあい、共に楽しむ時間を必ずつづけている。また、食事の用意の手伝いなどもしてもらい、スタッフと利用者が近い関係を保っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して、定期的開催される行事や地域における行事などにも参加している。また、気候に応じて散歩なども積極的に行っている。	地域の行事に参加したり、気候の良い日は散歩や買い物、ドライブ等に出かけています。花見や芋掘りなどの季節毎の外出や植物園等には家族の協力を得ることもあります。また、ホームのテラスで日光浴やお茶を楽しんだり、以前に住んでいた所へ出かけるなど希望に応じて個別外出にも取り組んでいます。	

グループホームカस्ताネット 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、いろいろなスーパーと一緒に買い物に出かけたりしている。利用者本人がお金を持ち、好きな物を買うなどし、QOLを高めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいという要望があれば、電話をかけ、話してもらうようにしている。家族とのコミュニケーションはやはり重要と考えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度に気をつけ、窓を開けるなどして常に利用者が快適に過ごせるように心がけている。共用の空間はもちろん、利用者個々の部屋も毎日掃除し、清潔に生活できるようにしている。	リビングには毎月、生け花教室の生花や季節毎のちぎり絵など利用者の作品が飾られ、家庭的な雰囲気があります。ソファや電気カーペットを敷き、利用者の居場所づくりの工夫がなされ、温かい団欒の場となっています。掃除は毎日行い清潔保持に努め、空気清浄機や加湿器を設置し、温湿度管理も行いながら居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のホールの席の場所なども、仲の良い人同士で座れるよう工夫している。また、外の桜の木の下にもイス・テーブルを置いており、利用者によってはほぼ毎日そこに座り外の空気を楽しんでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の部屋に、家族との写真・思い出のもの・ご自身で作られた作品などを飾っている。部屋が殺風景すぎず賑やかすぎずを心がけ、居心地よく過ごせるよう心がけている。	テレビやタンス、仏壇、いす、時計、縫いぐるみなどを持ち込まれ、家族と相談しながらその人らしい居室となるよう配置しています。自分で撮った写真や家族の写真、自身の書などを飾り、安心して過ごせるよう配慮しています。希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに自ら行ける方は行ってもらえるよう、夜間は常に電気をつけ分かりやすくしている。また、表札もつけており、トイレと個人の部屋などを理解してもらえるようにしている。トイレに行かれる際にはスタッフが見守るように努めている。		